

お年寄りに求められる各種手続き（2）

これまで、たいして苦もなく行ってきた手続きごとであっても、個人差はありますが、年齢を重ねてくると、難しくなっていくことが多くあります。今回は、実際に起こったお話をご紹介します。



83歳男性は、奥様との間に子供がなく、「どうせ俺が妻より先に死ぬだろう、これまで苦勞を掛けてきた妻の老後が淋しくならないように」と、3年前に自宅を引き払って、自立型の高齢者マンションに夫婦で入居しました。ところがその直後に、お元気だった奥様が急死されたのです。この男性が苦手とする生活全般の身の回りのことは、幸い高齢者マンションの有料サービスを使うことで、何とか困らない状況になっていました。

しかし、さまざまな事務手続きについては、そう簡単にはいきません。奥様のご存命のときから頼んでいた定期購入のサプリメントがそのまま継続され、コンビニ用請求書の未払が積み重なって督促状が何通も来ていたり、介護保険の還付金のお知らせが未開封のままになっていたり。OAG ライフサポートの職員が定期的に訪問し、そういった書類が目にとまったときは、ご本人にお声掛けして、お手続きの支援をしています。

そんな中、高齢者マンションから、この男性の携帯電話が利用停止になってしまい、パニック状態になっているという連絡が入りました。以前、携帯電話料金はクレジットカード払いになっているとお聞きしていたのに、どうして利用停止になるのだろうと、OAG ライフサポートの社内でも疑問の声があがりましたが、とにかくご本人に落ち着いていただくためにも駆けつけました。

そこで分かったのは、携帯電話利用料金の支払いのために登録されているクレジットカードの有効期限が数カ月前に切れてしまい、本来は、更新済のクレジットカードを登録し直さなければならなかったところ、それがされなかったために、請求書払いになってしまい、その請求書に気が付かず未払の状態がつづき、利用停止になったということでした。

高齢になって手続きが難しくなることの一つの要因に、送られてくる新たな文字情報に目を通し、内容を理解するということが面倒になるということがあるので、携帯電話会社からの注意喚起のお手紙やハガキにも気づきにくくなります。

近年、クレジットカード払いにするとポイントがつくなどという特典目当てで、公共料金をはじめ生活のありとあらゆる支払いをクレジットカード払いに登録している方も多いと思います。まだこのコラムを読んでくださる方々は、クレジットカードの有効期限が更新されたときに、改めて引落としの手続きをすることは簡単にできるでしょう。

しかし、次の5年後、またその次の5年後はどうでしょう。次の5年後に不安を覚えたときは、その時点で、クレジットカード払いから銀行口座引落としに変更しておくことをお勧めします。

つづく